

「頭の柔軟体操」～“ユーモア・ウィットの威力”をどうぞ！

人間考学を究めんとされる永遠の学徒、渡辺明・九州工業大学名誉教授にご登場いただいて、表題のシリーズをお届けします。

柔らかくほぐされた頭脳から、素敵なお夢アイデアが誕生しますように！（コラム担当 T 生）

第 12 回

原点回帰 No.1～2

平成 26 (2014) 年 6 月

原点回帰 No.1

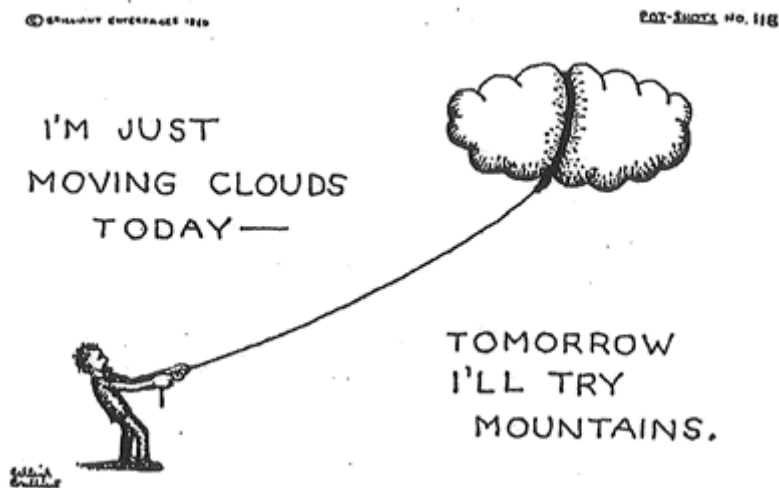


出典；BRILLIANT 社刊 POT-SHOTS

冒頭の名文句は筆者が若い滞米修学中に巷で見つけた BRILLIANT 社刊 POT-SHOTS の一部で、迷訳すれば「地球上で生活することはお金が掛かって何としんどいことか！でもはるか 1 億 5 千万キロも離れた太陽の周りを、1 年間もかけて一巡する旅費も含んでいるのだと思えば、安いもんじゃないかね。ものは考え様だぜ」とでもなるうが、当時、壮大な視点に立ったその考え方に感動した思い出は今もなお新鮮で、懐かしい。

グローバリゼーションという名の下で、市場原理・弱肉強食の「仁義なき戦い」が横行し、人間の無機質化が進みその心が乾く中、万物の霊長を自認する人間サマは、今こそせめて原点回帰・人間復権を計るべきではないのか。そしてこれは、本来諧謔を嗜み機知に富む日本人にとって特に大切なことだと考える昨今である。

そういえば、森鷗外は女中に「もう12時と言うな、まだ12時と言え」と、いつも前向きな姿勢を説いたと伝え聞く。



出典；BRILLIANT 社刊 POT-SHOTS

冒頭のショットもまた忘れ難い一コマで、「僕は今雲を動かそうとしているのだが、明日はあの山を動かそうと思っているんだよ。どんなもんだい！」と、意気込んでいる姿が今もって懐かしい。

ホモサピエンスがアフリカに出現して20万年、人間は着々と文明とやらを築いてきたが、負の遺産も次々に産み出し、例えばこのまま地球温暖化が進めば、今世紀末には平均気温が4.8℃、海面水位は81cmも上昇することである。昔は二百十日と二百二十日の台風に備えればよかったのが、今や30回/年も襲来し、やがて海面下に没する国も取沙汰されるなど、人間社会は憂慮すべき事態に直面しているのである。

さて、人間がこれまでで最も金を注ぎ込んできた部門は兵器産業で、文明の成果は皮肉にも「人殺し」に最も寄与し、気象をコントロールしたり、原子力発電の核ゴミを処理する技術など人間社会の安全・安心に関わる重大部門は未達のまま据置かれているのである。人間が英知を結集し、兵器開発に掛ける程の熱意で世界的に取り組んだら、解けない課題では決してあるまいと思うのである。

冒頭のショットが物語るような気宇壮大な視野で、せめて「雲を動かし台風の進路を変える」くらいの技術は生まれぬものだろうか。

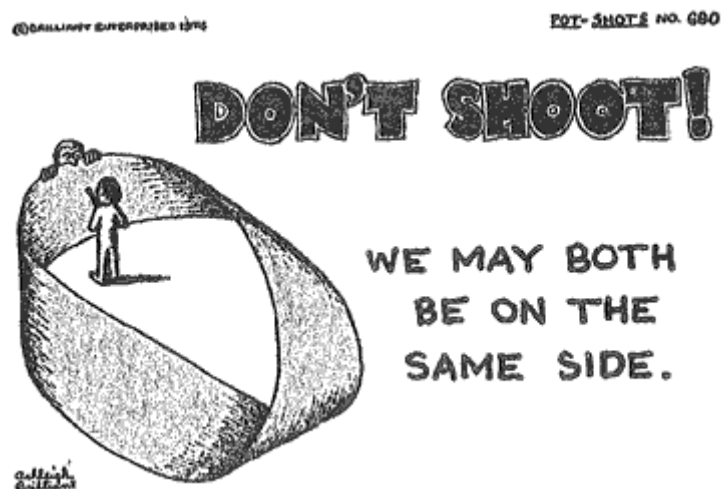
NO.2 言葉の威力

人間は有史以来、やれアングロサクソンだ、イスラムだ、ユダヤだ、華僑だ、いやシーヤ派だ、スンニ派だ、ブラックだ、ヒスパニックだ、などと、民族紛争、文明衝突、宗教抗争そしてイデオロギー対決などに明け暮れ、今日なお殺戮をくり返している。

万物の霊長を自認し、スバラシイ文明・文化を構築してきた人間は、その目指した理想と余りにも掛け離れた混沌の中で、特に大国が自国の野望剥き出しに「力の政策」を強行しているのだが、先述 BRILLIANT 社の金言集の中の次のショットは如何であろうか。

「おい！撃つのはやめてくれよ。俺たちは同じ側の人間同士じゃないかよ。メビウスの帯には裏側も表側もないじゃないか」と、訴えているのである。

さて、世界がメビウスの帯になったら、人間の争いの大方はそもそも起こらないのではないか。



出典；BRILLIANT 社刊 POT-SHOTS

昔話ばかりで恐縮ながら、忘れ難い思い出を更に続ける。ワシントン D.C.でホテルを探して歩いていたとき、次の様な宣伝文句を掲げた宿が目についた。

Within the Shadow of the Capitol, Washington, D.C.

「私共のホテルは国会議事堂から至近で、とても便利なところにあります」という代わりに「国会議事堂の日陰の中にあるのですぞ」と、大見えを張っていたのであった。

また、ニューヨークでのこと、同様にホテルを探し廻っていたところ、

Everything is new except our Address.

「わがホテルはのれん以外すべて新しいですよ」と、のれんの古さと設備の新しさを同時に誇った、見事な看板の宿に出交わしたのであった。

ワシントンでもニューヨークでも、ウイットに富んだこの様な名文句に釣られて投宿したことは言うまでもない。

ところで、日本のある町に「日本一うまい店」という看板を掲げた店がオープンしたところ、間もなく「世界一うまい店」と名乗る店が登場し、これで打ち止めかと思われていたら、何と今度は「この町で一番うまい店」と銘打った店が現われて、宣伝の応酬に決着がついた由である。

言葉の威力は実に強力で、唯々驚嘆させられる。

渡辺 明 九州工業大学名誉教授
夢アイデア審査委員会 初代（平成 14 年～17 年）委員長